

Dr.pH 液剤 (ドクターペーハー液剤) <既存緑地・法面用>

NETIS KT-220058-A

ドクターペーハー液剤は、すでに植栽されているアルカリ基盤土壌やアルカリ性法面土壌の表層を中和改良する液状中和剤です。



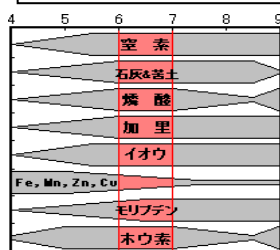
Dr.pH 液剤 20ℓ入り

- ・淡いピンク色です。
- ・若干の木酢臭があります。

● 樹勢劣化や枯損の多くは、アルカリ土壌が原因

多くの建設現場ではセメント固化剤による地盤安定化処理が行われています。このため、基盤はセメントの影響で強アルカリ性になっています。このようなアルカリ土壌では、いくら施肥しても植物が利用することができません。

アルカリ土壌の障害性



左図：土壌 pH と肥料成分の不溶化を示したものです

- ・pH7.5~8.8 の範囲でりん酸、ホウ素が不溶化します
- ・pH7~7.5 以上になると鉄、マンガン、亜鉛、銅といった微量成分が不溶化します

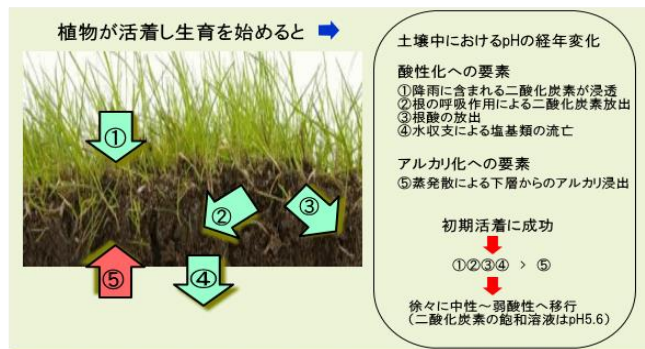
その結果、栄養障害から樹勢が衰えてしまいます。

写真右：客土が pH8.2 までアルカリ性になった結果、鉄、ホウ素、マンガンなどの欠乏症を呈したさつき。



Dr.pH 液剤散布による表層中和の効果

ドクターペーハー液剤を散布すると、浸透深さまでの 1~5cm の範囲が中和されます。(希釈倍率、散布量、浸透深さによって異なります) 下層にセメント処理基盤がある場合、この影響で徐々にリバウンドし pH が上昇する傾向がありますが、右図のように植物が活着した後は根の呼吸作用などにより pH は徐々に中性化に向かいます。植物が侵入していない土壌の場合、このような「炭酸化」が生じにくく、強アルカリのまま推移する傾向になります。僅か数cm の表層中和処理であっても一度植物が活着すると、自立的にある程度の深さまで中性化が進行します。



中和処理の手順

手順①: 希釈倍率を決める

正確な希釈倍率を把握するために中和試験を実施することをお勧めしています。

試験は無料で行っていますのでお気軽にお問い合わせください。

<工期が無いなどですぐに散布する場合は、土壌pHに応じて目安表を参考に散布してください。>

※pHや土質によって希釈倍率は大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

※砂質土の場合は薄め、粘性土や腐食土壌の場合は濃いめとします。

希釈倍率の目安表(pH8.0 以下にするための目安)

土壌 pH	8.5	8.5~9.0	9.0~9.5	9.5~10.0	10.0~10.5	10.5~11.0	11.0~11.5	11.5~12.0	12 以上
希釈倍率	15~20 倍	7~15 倍	5~12 倍	3~7 倍			3~5 倍		
散布回数	1 回			1~2 回			2~3 回		

②: 散布量を決める

法面の場合 ➡ 標準散布量は 2L/m² になります。浸透性の良い砂質やズリの場合には液だれしない範囲で 4~6L/m² としてください。

既存緑地の場合 ➡ 浸透量に応じ 3~5L/m² とします。

③: 散布実施(タンク、動力噴霧器、種子散布車などを用いて散布します)



法面(河川堤防)への散布。
pH10 に対し 12 倍希釈液を
2 リットル/m² 散布



散布後、pH7.5~8.0 で安定。
野芝を貼り付け。



野芝貼り付け後、3 ヶ月後
の状況



根は中和処理層に多く分布するが、さらに深部へと伸張り周囲を徐々に中性化する。

使用上の注意事項

- ・ドクターペーハー液剤は強酸性液剤です。目に入らぬよう保護メガネやゴム手袋を着用し作業してください。
- ・強風下での作業は控えてください。散布にあたって、霧状に液剤が拡散しないようノズルの調整を行ってください。
- ・保管する場合には、一般の人が触れないよう固縛してください。